

第2回 都市交通施策の再整理に関する検討会

議事概要

日 時: 令和8年3月30日(月)16時00分～18時00分

場 所: 中央合同庁舎3号館6階 都市局局議室

※事務局から資料に基づき説明がなされ、委員はじめ出席者間において、主に以下の意見交換がなされた。

【「都市交通軸」と「拠点エリア」の組み合わせ】

- 「都市交通軸」と「拠点エリア」を両輪で組み合わせ、都市全体としてネットワークを構築するという打ち出しをすることは、本検討会の大きな役割の一つである。
- 軸と拠点の「組み合わせ」という部分の内容が充実すれば良い。空間的にも施策や組織としてもどのように組み合わせっていくかを今後具体化していく必要がある。
- 立地適正化計画と地域公共交通計画は、それぞれが個別に作成されている印象がある。立地適正化計画と地域公共交通計画が実体的に連携していくことが必要ではないか。
- 高質な空間を形成するためには、都市交通軸への土地利用誘導や、拠点エリアのプレイス性向上が特に重要と考える。都市交通軸においても、空間の高質化は重要であるため、土地利用との一体性を持たせることが必要ではないか。
- 学識者による理論的なあるべき論と、実際の行政施策との間には乖離が生じがちである。つなぐのはエビデンスであろう。

【都市交通軸の強化に向けた取り組み】

- 需要創出型への転換による正のスパイラルにおけるそれぞれの要素は、一方向ではなく相互に関係している。外出率向上により、公共交通の利用者が増え、運行頻度が向上し、また外出率が上がるというように相互に関連しながら向上させていくことが重要。
- 運行本数を増やせば利用者数は増えると思うが、地方では利用者の母数が少なく、運転士の確保も難しい。結果として運行頻度を増やすことが難しい。
- ルート・便数・利用しやすい運賃の3要素が重要。岡山市では、実験的に運賃を無料化したところ利用者が約2倍になり、巨大な潜在需要を確認した。運賃制度をゾーン制にして定期券をゾーン内乗り放題にすることや、長距離移動の定期券価格に上限を設定することなどを事業者と議論している。
- ネットワーク性の向上に関して、岡山市では路面電車の延伸に取り組んでいるが、インシャルコストのほかランニングコストもかかる。現状、行政の支援として、バスには赤字補填があるが、軌道も、需要創出型の取組のランニングコストに対する支援があれば施策の推進につながるのではないか。
- 運転士や車両の確保がネックになることが多いため、国と市による支援が有効ではないか。
- シアトルで新たなLRTが開業し、大盛況になっているニュースがあったが、アメリカだとインフラ投資法があったりする。日本と国外の仕組みの違いもレビューがあるとよい。

- 100 年間、需要対応型の考え方であったが、転換が必要である。他方、欧州のやり方をただ模倣してもうまくいかないので、どういうやり方があるか検討を深めるべき。
- ロボットタクシーの普及や自動運転の進展も見据え、公共交通が今後維持できるのかという観点も踏まえて議論をすることが重要。
- 自動運転の進展により、人口が分散し、低密度に人が居住するということは起こり得るが、現在の一部の小規模自治体は既にそのような状況と言えるのではないか。どういう事象が想定され、どういう課題にどう対応していくかを議論することも重要である。

【拠点エリアの魅力向上に向けた取り組み】

- 劇場やスポーツ施設などの文化的体験の後に、余韻を損なうことなく楽しむことができる「余韻都市」という考え方がある。余韻空間の組み合わせが、プラス1トリップを生む可能性があるのではないか。余韻空間とその他の施設や土地利用の一体性も重要である。
- 自由裁量的な移動でも、目的地への往復にとどまらず、その他の場所に立ち寄ることなどにより滞在時間を伸ばすことも重要。空間の質の向上や、沿道建物への望ましい利用用途の誘導など地域のまちづくりとの連携等を通じて、余暇・娯楽によって滞在時間を伸ばす工夫が課題である。
- 拠点の価値を高める空間の高質化については、行政の施設だけでなく、民間施設の質が上がっていくことも重要。街のコンセプトを共有し、しかるべき投資をしてもらう必要がある。また、整備後の維持管理も必要であり、行政単独では高質な空間を維持することも難しい。
- 拠点エリアにおいては、商業を活性化するための戦略があっても良いのではないか。富山市では、トラム開通後、駅前の拠点性が高まった一方で、旧中心市街地は住宅系へ用途転換が進んでいる。こういったところに対し、商業機能や業務機能を誘導する必要がある。また、その受け皿として駐車場の確保も必要である。
- 「官民所有のパブリックスペースの利活用・管理ワーキンググループ」のとりまとめで、ウォークアブル施策とエリアマネジメントの連携について記載がある。この内容も踏まえると、都市局の政策としての一体感が出るのではないか。
- 地方では、スーパーと集約駐車場と公共交通の接続が重要と言われており、モビリティ・ハブの整備も重要である。

以上